

事項	にんにくのハウス栽培では露地栽培より小さいサイズのりん片や珠芽を利用することができる		
ねらい	にんにくの無加温ビニールハウス栽培において、露地栽培で通常使用する種子より小さい7～8gのりん片及び3gの珠芽を種子として利用し、10gの種子りん片と同等の生産量が得られることを認めたので、参考に供する。		
指導 参考 内容	<p>1 ハウス栽培における小りん片、珠芽の利用性</p> <p>(1) 7～8gのりん片は、10月21日ころの植付けで、露地栽培で使用している10gのりん片と同等以上の収量及び品質を得ることができる。</p> <p>(2) MGS系統の3gの珠芽は、10gのりん片と同等の収量及び品質を得ることができる。この場合、植付時期を早くすることで若干収量が増えると思われる。</p> <p>2 珠芽の採取方法</p> <p>(1) 珠芽は、採種ほ場で抽苔時期にとう摘みをせず、種球の収穫時期まで生育させたものを、種球と同時に収穫して用いる。</p> <p>(2) 乾燥及び植付けまでの貯蔵方法は、種球の場合に準ずる。</p>		
期待される効果	小種子を効率よく利用することができる。		
利用上の注意事項	10月6日及び17日植付区は、ハウスの準備が間に合わず移植栽培としたことから、植傷みが発生し、生育や収量に不利に影響したと考えられる。		
担当部署 (担当者名)	中南地域県民局地域農林水産部 普及指導室 (小田桐理佳、庭田英子)・黒石普及分室 (高田浩美)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成18年度新産地育成等新技术確立実証事業、平成18年度普及指導員調査研究課題		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 無加温ビニールハウス栽培における種子の種類、植付日別の平均球径、平均球重及び収量
(平成18年 中南地域県民局地域農林水産部普及指導室)

区	系統名	種子 分類	重量	植付月日	生球			乾燥球		
					球径	球重	収量	球径	球重	収量
					(mm)	(g)	(kg/10a)	(mm)	(g)	(kg/10a)
①	MGS	りん片	10g	10月21日	64.4	99.6	2,177	63.1	69.4	1,517
②	MGS	りん片	10g	11月4日	65.4	102.4	2,240	56.5	57.0	1,248
③	MGS	りん片	7~8g	10月21日	68.9	121.6	2,660	63.8	74.6	1,631
④	MGS	りん片	7~8g	11月4日	60.8	87.2	1,906	60.6	64.2	1,404
⑤	MGS	りん片	3~5g	10月17日	60.7	85.6	1,872	49.9	39.3	860
⑥	MGS	りん片	3~5g	10月21日	59.0	79.0	1,729	52.6	46.4	1,016
⑦	MGS	りん片	3~5g	11月4日	52.4	56.9	1,245	52.0	45.8	1,002
⑧	MGS	珠芽	3g	10月6日	66.1	101.6	2,221	60.2	64.8	1,416
⑨	MGS	珠芽	3g	10月17日	64.4	94.7	2,071	60.8	67.9	1,485
⑩	MGS	珠芽	3g	10月21日	64.9	97.2	2,125	56.9	57.0	1,247
⑪	MGS	珠芽	1g	10月6日	62.6	85.9	1,879	57.6	58.3	1,275
⑫	県	珠芽	3g	10月6日	62.9	94.5	2,066	57.3	57.0	1,246
⑬	県	珠芽	3g	10月17日	60.4	85.2	1,863	52.9	49.2	1,075
⑭	県	珠芽	3g	10月21日	61.3	86.1	1,883	55.0	52.3	1,144
⑮	県	珠芽	1g	10月6日	58.7	74.5	1,630	49.9	40.8	893

(注) 試験場所、植付年、調査月日、耕種概要等

- 1 品種：福地ホワイト
- 2 系統：「MGS」は住化テクノサービス株式会社 MGS事業所から14~15年度に購入、「県」は青森県配布の優良種苗で15年度に導入した株由来。
- 3 りん片はJA常盤村種子増殖ほで栽培2年目の株から1年農家採種したもの。珠芽は同農協種子増殖ほで栽培2年目の株から直接採取して使用。
- 4 試験協力機関：常盤村農業協同組合
- 5 試験場所：藤崎町福島（山内壮一郎氏、無加温ビニールハウス）
- 6 植付年：平成17年、収量調査：平成18年6月6日
- 7 栽植様式：グリーンマルチ栽培。株間15cm、条間23cm、6条植え（栽植本数：21,870本/10a）
但し、10月6日及び17日植付区（⑤⑧⑨⑪⑫⑬⑮）は、一旦72穴セルトレーに植付して別途ハウスで管理後、10月21日に移植。このとき、床土としてサカタのタネ社スーパーミックスTK S-2を使用。
- 8 植付前の硝酸態窒素：11.6kg/10a
施肥量 (kg/10a)：N 14、P₂O₅ 16、K₂O 10（にんにくエース100kg/10aを使用）
- 9 供試株数：1区50株。調査株数：1区25株。1区制。

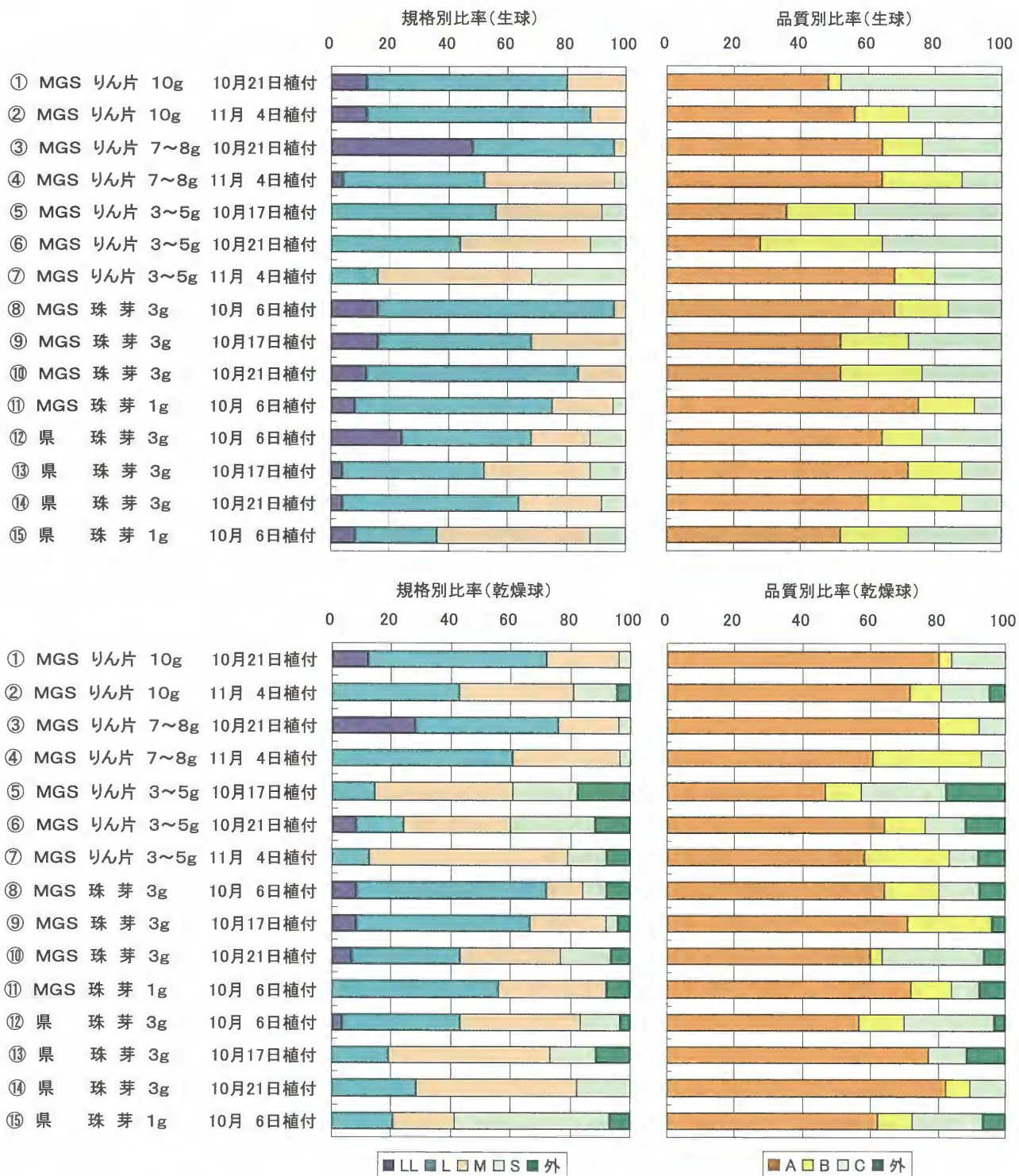


図1 無加温ビニールハウス栽培における種子の種類、植付日別の規格別及び品質別割合
(平成18年 中南地域県民局地域農林水産部普及指導室)

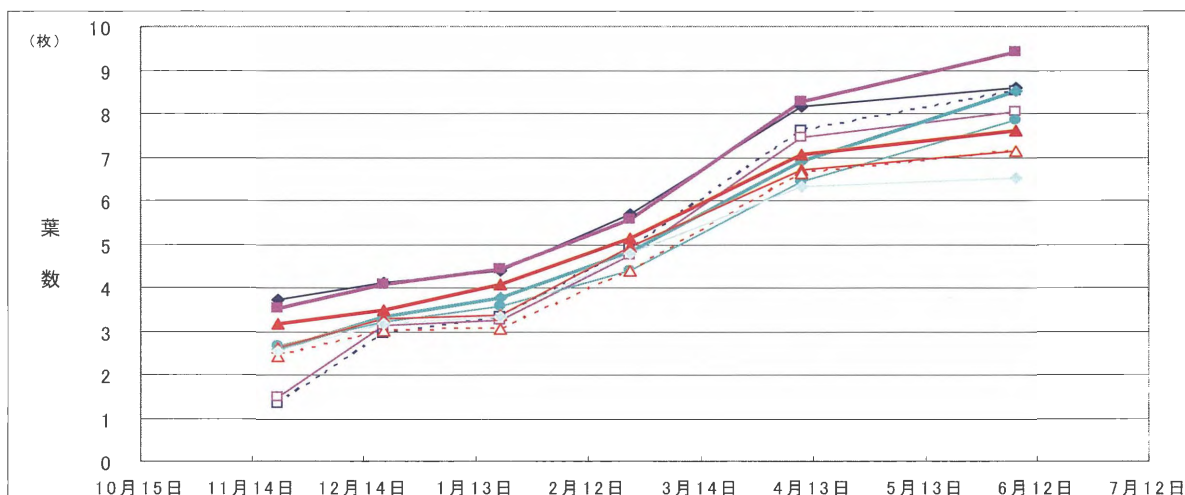
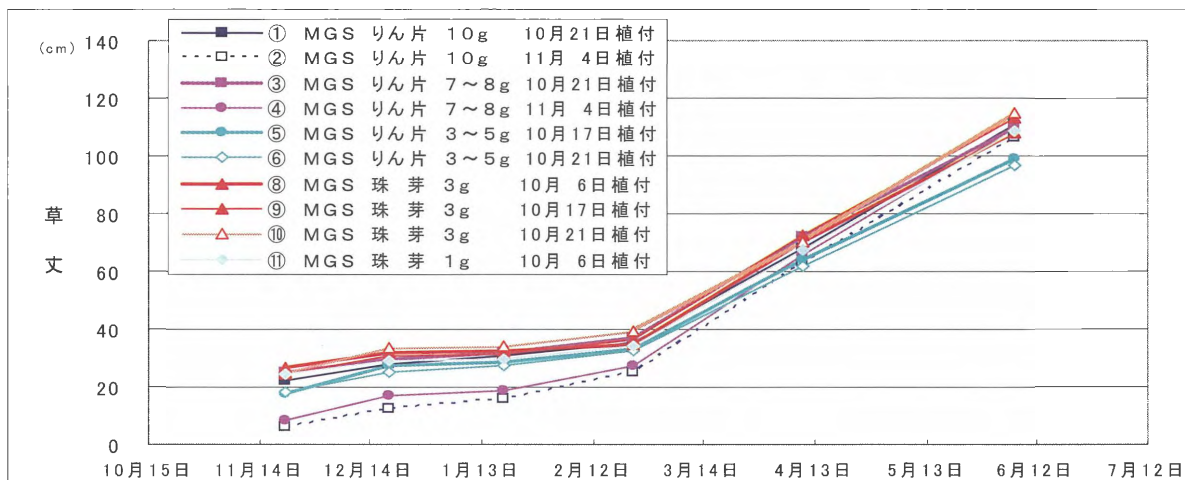


図2 上記試験の主な区の生育経過 (平成18年 中南地域県民局地域農林水産部普及指導室)

(参考)

表2 ハウスにんにく植付時期試験結果 (平成17年 全国農業協同組合青森県本部、津軽北部農業協同組合金木支店)

植付日	種子サイズ	4葉残り重量 (根切り、g)	等級 (%)					一つ玉 (%)	球割 (%)	抽台 (%)	茎割 (%)
			2L	L	M	S	2S				
10月15日	小種子 (8~10g)	288	95	5	0	0	0	10	25	0	7
	中種子 (11~15g)	262	59	38	3	0	0	14	45	25	3
	大種子 (16~20g)	272	68	18	9	6	0	5	38	27	6
10月25日	小種子	276	86	8	0	6	0	0	11	6	11
	中種子	239	54	27	5	11	3	3	49	36	8
	大種子	265	71	20	6	3	0	10	28	27	0
11月5日	小種子	257	83	14	3	0	0	0	11	0	6
	中種子	228	56	27	3	15	0	0	27	45	18
	大種子	246	71	21	6	2	0	3	34	0	6
11月15日	小種子	225	56	44	0	0	0	0	9	0	9
	中種子	195	38	32	29	0	0	0	12	48	9
	大種子	217	50	15	27	7	0	0	17	0	7

- (注) 1 品種：福地ホワイト (MGS系統) 2 試験場所：金木町川倉 (泉谷久友氏ハウス)
 3 植付年：平成16年、収量調査：平成17年6月3日
 4 栽植様式：黒マルチ栽培。株間15cm、条間25cm、4条植え (栽植本数：15,937本/10a)
 5 施肥量 (kg/10a)：N 25、P₂O₅ 25、K₂O 25 (CDU555 を使用)
 6 供試株数：1区36株、1区制。